

# 福岡県 教育新聞

福岡市東区馬出4丁目12番22号  
福岡県教職員組合  
TEL(092)631-4611  
編集発行責任者/藤井 隆晴

福教組  
ホームページ  
<http://ftu-net.jp>



## 古賀ちかげ勝利!

### 参議院選挙全国比例区(立憲民主党)

### 福岡選挙区でも古賀ゆきひとが当選!

7月10日(日)に投票を迎えた第26回参議院議員選挙において福教組出身、日教組推薦候補の古賀ちかげが、比例代表全国区において、14万4344票を獲得し、見事当選を勝ち取った。また、福岡県選挙区においても福教組推薦の古賀ゆきひとが当選し、「ダブル古賀」の勝利となった。

組織内から国会議員を誕生させたことは、今後の運動における絶大な力となるだろう。古賀ちかげ参議院議員には、「子ども」「くらし」「平和」「女性」をキーワードに、様々な活動を国会内外で推進していくことを期待したい。

20年11月末の推薦決定から約1年半、全国での支持拡大に向けて日教組・福教組は総力をあげて組織的なとりくみを展開してきた。選挙戦は当初から厳しい戦いを強いられたが、選挙戦最終盤の「ラストフライデー&サタデー」をはじめとする組合員の粘り強いとりくみが、当選という大きな成果を生み出した。



### 当面の主な予定

COVID-19の影響で、会議の延期等がある場合があります。

#### ～7月～

- 20日(水) 一斉分会会議
- 23日(土) 県教研共同研究者総会・学習会
- 28日(木) 社会保障オルグ団会議
- 30日(土) 県教協臨採部代表者会/養護教員部長会/健康問題検討委員会/明日の教育を拓くセミナー
- 31日(日) きょうけん in Summer

#### ～8月～

- 1日(月) 県母女文科省・厚労省要請行動
- 7日(日) ジェンダー平等定例学習会
- 21日(日) 支部長会/支部長・書記長会/指定整備工場協議会総会
- 27日(土) 県教協養護部員学習会/県教協教文部会長会/教研分科会学習会(音楽)
- 28日(日) 県教協青年部交流集会

## 次の100年に向けて持続可能な教育現場をつくらう

### 第101回福教組定期大会

さる6月4日(土)、福岡県教育会館において、福教組定期大会が開かれ、2022年度のとらぐみ方針を決定した。感染症拡大が一定落ち着いたこともあり、今回は代議員全員が対面参加することができ、一般討論で20本、総括討論で2本、計22本の討論が展開され、昨年よりもにぎやかな大会となった。



昨年よりも多くの代議員が結集することができた。

討論では、無駄な研修や「学力向上」に追い立てられる学校の実態や、それに伴う長時間労働に苦しむ教職員の声が多く報告された。さらに職場の「ブラック化」が広く知られるよう

になったことで若者の教職離れが進み、それが未配置の問題に拍車をかけているのではないかと指摘もあった。

しかしながら、厳しい実態の中でも、人権・平和に根差したとりくみを行っている支部や、地道なとりくみが結実し、組合加入がすすんでいる支部など、明るい報告もあった。

本部原案は賛成多数で可決され、憲法や子どもの権利条約の理念に基づき、人権・平和・環境・共生を重視する持続可能な社会を実現するために、組合員の力を結集することなどを盛り込んだ大会宣言を採択した。

### 本村執行委員長挨拶

新型コロナウイルス感染症は、弱毒化もあり、マスクを外すのか?など社会生活への規制が弱まるうとしています。しかし、決して収束したわけがなく、今は、小中・特別支援学校などの教育施設での感染リスクが一番懸念されています。そんな中において、子どもたちの安全・安心を第一に、ゆたかな学びの保障と職場環境改善の運動、更には人権・平和・民主主義の確立に日夜と取り組んでいる組合員の皆さまに心からの敬意を表します。

さて、5月11日参議院本会議において、本年7月に教員免許更新制度が廃止されることとなりました。これは、日教組中央執行委員と日政連国会議員団の連携した粘り強いとりくみの成果です。まずはみんなで喜び合いたいと思います。

そして、このことは私たちに2つのことを教えてくれ



挨拶する本村委員長

ました。一つは、日教組と日政連国会議員団のとりくみと申しましたが、それを後押ししたのは、組合員一人ひとりの強い怒りと、廃止に向けた強い思い、全国の分会・支部・県教組での要求運動です。このことが教員免許更新制度は不要という世論の形成へつながっています。文科省協議を強力にバックアップしたことは間違いありません。組合の意義はここにあります。私たち組合員の不満や不安は組合の要求となり、制度を変えることができることを確認する必要があります。次にめざすべきは、学力調査の廃止・抜本的見直しです。

「教員未配置」問題、進まない「教職員の働き方改革」、「部活動改革」、「定年引上げ」など学校をめぐる課題は山積しています。すべての教職員が安心して、法に基づいて

た働き方ができるよう分会・支部・本部の連携したとりくみを着実に積み上げていきます。そのために、確信と熱をもって組織拡大を進めましょう。

2020年問題として提起してきた教職員の「大量退職」は、ピークを越えま

した。22年度4月、三つの支部が21年度より組合員数増に転じています。この機

会・支部・県教組での要求運動です。このことが教員

免許更新制度は不要という世論の形成へつながっています。文科省協議を強力にバックアップしたことは間違いありません。組合の意義はここ

にあります。私たち組合員の不満や不安は組合の要求となり、制度を変えることができることを確認する必要があります。次にめざすべきは、学力調査の廃止・抜本的見直しです。

「教員未配置」問題、進まない「教職員の働き方改革」、「部活動改革」、「定年引上げ」など学校をめぐる課題は山積しています。すべての教職員が安心して、法に基づいて

た働き方ができるよう分会・支部・本部の連携したとりくみを着実に積み上げていきます。そのために、確信と熱をもって組織拡大を進めましょう。

2020年問題として提起してきた教職員の「大量退職」は、ピークを越えま

した。22年度4月、三つの支部が21年度より組合員数増に転じています。この機

会・支部・県教組での要求運動です。このことが教員

免許更新制度が廃止になったのも国会における日政連

議員の活躍があったからです。福岡県においても12人の日政連・福政連議員がい

ます。政策・制度要求実現のため各級議会で本部・支部と連携して活動していま

す。山積している課題を解決するためには、学校現場の事、子どもたちの事、教

職員の働き方の実際を知っている日政連・福政連議員

が一人でも多く必要です。私たちは、その思いで昨年

10月福岡5区選挙区から「堤かなめ」さんを衆議院議員と

して国会に送りました。「堤さんは1期目ながら、もう何

度も質問にたち、日教組と連携して大活躍しています。

次にロシアのウクライナ

侵攻について述べます。どんな理由があるにせよ、紛争の解決を武力をもって行

うことは許されません。ロシア・プーチン政権に即時停

戦・ウクライナからの撤退を求めて声をあげていきま

しょう。戦争を始めるのは政治であり、時の権力者で

はわれわれ市民です。戦争は一人ひとりの命・生活を根

こそぎ奪います。私たちは、今年、日本復帰50年となる

オキナワからこのことを学んだはず

です。残念ながら、西側の大国は、ロシアに経済的圧力を

かけ、ウクライナに武器を提供するだけで、本気で仲

裁に入る動きはまだ見られません。日本国内を見ても、

ロシアのウクライナ侵攻を嬉々として利用し、軍備増

強のみならず、敵基地攻撃能力の保有や核兵器共有、

更には憲法九条の改悪を声高に言い放つ政治家達が存在する状況です。

### 討論の紹介 (一部)

ないことです。そのためのまつりごとや外交ができる、そんな政治を取り戻していきましょう

○まず、現場において一番苦しいのは人手不足だ。4月時

点での教職員未配置240人超！恐ろしい数字である。

しかし、これは4月時点の話であって、支部内でもこの

4～5月で病休者が既に3人いる。代わりの職員は来

ない。校内操作で何とかしているものの、確実に誰

かがオーバーワークになって

いる。次にまた誰かが倒れる

のではないかと心配である。

なぜ、このような状況が生まれるのか。要因の一つが

学校現場の多忙化からくる超過勤務だ。働き方改革の

名のもと「早く帰りなさい」の掛け声は増えたが、業務

が減らないのだから帰りたいけども帰れない、もしくは

持ち帰り仕事が増えるという現状だ。

これが当たり前と思って働き続けられ、されていく

若い人がまた出てくるはずだ。このような勤務条件で

は教員になりたいと思う人はいない。そもそも多くの教

職員には基本的な勤務条件が知らされていない。義務は

強調されるのに、権利は教えられていない。民間企業で

は考えられないことである。

きちんとした「知識」を働

く者が共有することで、日々の業務の問題や課題に気づ

き、解決に向けた運動へとつながっていくのではないか。

教員になれば、どのような権利が保障されるのか、という

ことを県教委に説明させることを要求すべきだと思

う。

○わが支部では、教文部のとりくみとして「平和の旅」と称して沖縄や広島・長崎

をはじめ全国各地の戦跡、COVID禍が始まってから

は県内のフィールドワークを行ってきた。また、地域教材

づくりのために、地元田川の炭鉱の遺構めぐり、大刀洗

の旧陸軍飛行場関連施設の見学、北九州の「八幡大空襲」

の学習会等を、教研社会科部会や青年部を中心に行ってきた。

こうしたとりくみに参加していつも感じるのは、戦争

の「リアルな姿」とそれを伝えようとする講師の方々の「熱」だ。地元出身でない若い先生にとっては、地域を知り、子どもたちと向き合った授業を作っていくうえでも非常に意義深い経験となっている。学習会後の交流

会では、若い先生たちの日々の教育実践についての悩みや

苦労話に対して、ベテラン組合員から「教科書通りでない」含蓄あるアドバイスがあ

り、世代間の継承も自然に行われている。

支部総会のスローガンは「未来へつなぐ 確かな歩

み」。戦後77年目を迎える今日、ロシアによるウクライナ

侵攻によって世界は大きな岐路に立たされている。今

こそ日教組不滅のスローガン「教え子を再び戦場に送

るな」を未来へつなぐことを固く決意し、教師自ら学び、

議論し、目の前の子どもたちとの日々の教育活動を積み上げていこう。

※他の討論内容も次号以降で紹介いたします。



【朝倉支部】



【田川支部】

※他の討論内容も次号以降で紹介いたします。